



E S G



環境

関連するSDGs



### 基本的な考え方

生活者の皆様に、健康、快適、清潔・衛生を通じた顧客体験価値を提供するとともに、人々の健康や暮らしの基盤となる地球環境を守ることは、「次世代ヘルスケアのリーディングカンパニー」を目指す企業として、重大な責任であると考えています。

ライオンは2013年に策定した環境目標「Eco Vision 2020」のもと、持続可能な地球環境の実現を目指して、低炭素社会の実現、循環型社会の実現、自然との共生、および環境啓発に関する2020年目標の達成に向け取り組んでいます。

昨今では、2015年のパリ協定やSDGsの採択等を背景として、国内外での持続可能な社会に向けた動きが活発化しています。

こうした潮流をふまえ、2050年に向けた長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」を2019年に策定しました。今後は脱炭素社会、資源循環型社会の実現に向けてチャレンジしていきます。



「暮らし、まいにち、エコ。」

<https://www.lion.co.jp/ja/csr/ecolion/>

### 環境方針

ライオンは環境方針を、「経済発展と環境保全が両立する持続可能な社会を創造していくため、自主的、積極的に行動する」

という「ライオン企業行動憲章」の精神に基づいて定めています。環境方針は、当社の環境活動の基盤となっています。

### 環境方針

製品の開発から原材料などの調達、製造、流通、販売、お客様の使用・廃棄までのすべての過程で「地球温暖化防止のための低炭素社会の実現」、「資源の循環的・有効活用による循環型社会の実現」、「人々の健康や自然生態系、生物多様性を保全するための自然との共生」に配慮し、地球環境への影響を可能な限り減少させるよう、自主的・積極的に行動します。

#### 1. 持続可能な社会をめざす

環境マネジメントシステムを推進し、継続的な維持、改善により地球環境の保全を行う。

#### 2. 法的小およびその他の要求事項の遵守

環境保全に関する法規制や取り決めを遵守し、自主的な行動基準を設定して実行する。

#### 3. 環境目的、目標の設定と実施の検証

国内外における企業活動の環境影響を的確に捉え、技術的・経済的に可能な範囲で、改善の目的および目標を設定するとともに、環境マネジメントプログラムを策定、実施し、その実施状況を定期的に検証する。

#### 4. 環境配慮製品の開発

ライフサイクルアセスメントの視点に基づき自ら定めた「ライオンエコ基準」に則り、環境に配慮した製品開発を積極的に推進する。

#### 5. お取引先との連携による環境負荷の低減

原材料調達先や外部生産委託先、販売先と連携し、仕入れからお客様への商品提供に至るまでのあらゆる段階で、環境負荷の低減に努める。

#### 6. 自然との共生

生物多様性や大気・水環境に配慮した事業活動を行うとともに、自然環境保護活動に積極的に取り組む。

#### 7. 全従業員への周知と環境保全活動の推進

関係会社を含め全従業員に環境方針を周知し、環境保全への意識高揚に努め、全従業員一体となって環境管理活動を推進する。

#### 8. 情報公開の推進

事業を取り巻くすべてのステークホルダーとのコミュニケーションの推進に努める。また、この環境方針は自由な閲覧を可能にして、要望する全ての人々に提供する。

(2013年1月1日改定)

E S G

### 環境マネジメントシステムと環境管理体制

#### ● 環境マネジメントシステム

ライオングループの環境マネジメントシステムは、事業活動、製品やサービスが環境におよぼす影響を把握、評価、是正するとともに、環境保全活動を継続的に改善することを目的としています。

また、環境マネジメントおよび活動報告については、グローバルな環境対応を目指して体制の充実に努めており、海外グループ会社の環境データをWebサイトにて公開しています。

#### グループ会社工場環境データ(海外)

<https://www.lion.co.jp/ja/csr/report/pdf/environment-management.pdf>

#### ISO14001 認証取得状況

当社は2001年7月に全工場一括でISO14001の認証を取得しました。2016年6月には、ISO14001の2015年版への更新を行い、日本能率協会審査登録センター(JMAQA)の審査により、全工場が基準に適合していることが確認されました。国内および海外の生産系関係会社も含めて、全社的にISO14001の取得やISO14001に準じた運用を実践し、管理システムと環境保全活動を継続的に進めています。

#### ● 環境管理体制

地球環境への負荷を軽減しながら、事業を成長させるため、2019年からは従来の「環境保全推進委員会」を新設した「サステナビリティ推進会議」に統合して、社長を含む業務執行役員と関係部門で構成されるメンバーで、環境問題への対応方針の審議を行い、推進状況のモニタリングを実施しています。

#### ● 法規制の遵守

当社では、省エネ法\*1および温対法\*2、化管法\*3、化審法\*4、廃掃法\*5等、環境関連法規制の改正への対応について、行政や工業会等から提供される情報を収集後、化学物質関連情報のイントラネット活用システムに登録し、関連する部門に周知・徹底しています。

また、「廃棄物管理規程」等の社内規程を定め、適切な管理体制を構築しています。2019年においても罰金、科料等を処せられるような違反はありませんでした。

### 汚染の予防

当社は、窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)およびばいじんや揮発性有機化合物(VOC)等の化学物質の排出量削減にも自主的に取り組んでいます。また、排水処理設備の安定化と定期的な保全により、化学的酸素要求量(COD)の低減にも努めています。

化管法PRTR制度\*6に基づく化学物質管理に関するデータは、Webサイト上に公開しています。今後も適正な届け出と排出量の管理を強化していきます。

#### 生産系事業所環境データ(国内)

<https://www.lion.co.jp/ja/csr/report/pdf/domestic.pdf>

#### 2019年度PRTR対象物質の排出量(国内グループ)

<https://www.lion.co.jp/ja/csr/env/enhancement/pdf/prevention.pdf>

#### \* 1 省エネ法

「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」の略称

#### \* 2 温対法

「地球温暖化対策の推進に関する法律」の略称

#### \* 3 化管法

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」の略称

#### \* 4 化審法

「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」の略称

#### \* 5 廃掃法

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の略称

#### \* 6 化管法PRTR制度

化学物質の排出量等を把握し、集計・公表する制度

#### 環境とともに

<https://www.lion.co.jp/ja/csr/env/>



ESG

### ライオングループの化学物質管理の充実

化学物質は、生活を便利で快適にする上で欠かせないものですが、適切な管理を怠り事故が起きた場合、人々の健康や環境に大きな影響を与えるおそれがあります。当社では、関連法規の遵守はもちろん、独自の基準に基づき、製品の開発から使用・廃棄までの各段階で、化学物質の安全管理を推進してい

ます。2018年より、「化学物質情報管理システム」を当社の研究開発拠点で運用しています。

#### 化学物質管理

<https://www.lion.co.jp/ja/csr/env/enhancement/>

### ライオングループの環境への取り組み

#### ● [Eco Vision 2020] 第3期(2018-2020年)2年目の推進

[Eco Vision 2020]は、2012～2020年の9年間で第1～第3の3期3カ年に分けて推進しています。2019年は、第3期(2018～2020年)の2年目であり、2020年の最終年度に向け、

当社グループ従業員が一丸となって環境への取り組みを推進しています。

※ [Eco Vision 2020] 第3期の実績はP22に掲載しています。

#### CO<sub>2</sub> 低炭素社会・循環型社会の実現

当社グループは、原材料調達から消費者による廃棄までのすべての段階で、温室効果ガスの排出量削減や資源の循環利用・

有効活用を進めています。今後も低炭素社会・循環型社会の実現に向けて取り組みを推進していきます。

全体像

	原材料調達	当社での活動	消費者による使用	消費者による廃棄
<b>低炭素社会の実現に向けた活動</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>植物原料の使用による石油資源の代替推進 → <a href="#">関連情報</a> Web</li> <li>植物由来容器材料の使用による石油資源の代替促進 → <a href="#">関連情報</a> p.10</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産プロセスの見直し、設備更新時における省エネ機器導入、商品のコンパクト化等によるエネルギー効率の向上 → <a href="#">関連情報</a> p.10</li> <li><b>オフィス・事務所</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>事務・営業部門、研究・技術開発部門等、全社による省エネ活動</li> </ul> </li> <li><b>出荷後の流通</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>商品輸送時のモーダルシフト化率向上</li> <li>積載率向上等による物流効率の改善 → <a href="#">関連情報</a> Web</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品を通じた環境意識の啓発(エコ基準を達成した商品に環境ラベルを付与) → <a href="#">関連情報</a> p.20</li> <li>節電型商品による商品使用時の電力使用量の削減(洗濯時のすすぎ回数の削減) → <a href="#">関連情報</a> p.10 → <a href="#">関連情報</a> p.20 → <a href="#">関連情報</a> Web</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>植物原料の使用による石油資源の代替推進</li> <li>3Rの推進(つめかえ、内容物の濃縮コンパクト化、再生PET・薄肉化等の容器の開発) → <a href="#">関連情報</a> p.10 → <a href="#">関連情報</a> p.20 → <a href="#">関連情報</a> Web</li> </ul>
<b>循環型社会の実現に向けた活動</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>植物原料の使用</li> <li>リサイクル材料の使用 → <a href="#">関連情報</a> p.10</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>工場</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業所でのゼロエミッションの推進</li> <li>製造工程排水のリサイクルや雨水活用による水使用量の削減 → <a href="#">関連情報</a> Web</li> </ul> </li> <li><b>オフィス・事業所</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>全社的にグリーン購入を推進 → <a href="#">関連情報</a> Web</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品を通じた環境意識の啓発(エコ基準を達成した商品に環境ラベルを付与) → <a href="#">関連情報</a> p.20</li> <li>節水型商品による商品使用時の水使用量の削減(洗濯時のすすぎ回数の削減) → <a href="#">関連情報</a> p.10 → <a href="#">関連情報</a> Web</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3Rの推進(つめかえ、内容物の濃縮コンパクト化、再生PET・薄肉化等の容器の開発) → <a href="#">関連情報</a> p.20 → <a href="#">関連情報</a> Web</li> <li>「ハブラシ・リサイクルプログラム」の推進 → <a href="#">関連情報</a> p.20 → <a href="#">関連情報</a> Web</li> </ul>

ESG

#### ● 3Rの推進

当社は、容器・包装材料削減のための取り組みとして、3R (Reduce: 使用量の削減、Reuse: 再利用、Recycle: 再資源化) を積極的に推進しています。



#### ● Renewable (持続可能な資源の活用)の推進

当社は、世界的な環境問題となっている「海洋プラスチック問題」への取り組みとして、容器・包装材料のプラスチック削減に向け、Renewable(リニューアブル: リサイクル材料・植物由来材料等の再生可能資源の使用)を3Rとともに推進しています。

#### ● 商品を通じた環境コミュニケーションの推進

当社は、生活者に商品を通じて環境配慮の重要性を啓発するため、製品ライフサイクルの視点から評価項目を設定した当社独自の「ライオン エコ基準」をクリアした商品に、「環境ロゴ」と環境に配慮した理由を併記した「環境ラベル」を2014年より付与しています。



「トップスーパー-NANOX」つめかえ

#### ライオン エコ基準とは

<https://www.lion.co.jp/ja/csr/ecolion/#sec2>

#### 「暮らし、まいにち、エコ。」マーク表示製品一覧

<https://www.lion.co.jp/ja/csr/ecolion/#sec4>

#### 取り組み事例

##### 定期的なハブラシ交換とリサイクルの促進

##### ● 「お口がいい!」と「環境にもいい!」の実現でSDGsにも貢献

当社は、毎月8日を「歯ブラシ交換デー」として、月1回のハブラシ交換を促進しています。近年では、海洋プラスチック問題が大きな社会課題となっており、リサイクルは解決する一つの手段と考えています。当社事業で製品プラスチックの使用量が一番多いハブラシを通じて、生活者の健康な習慣づくりと同時に、環境負荷低減に貢献する取り組みを推進しています。

##### ● ハブラシリサイクルの推進

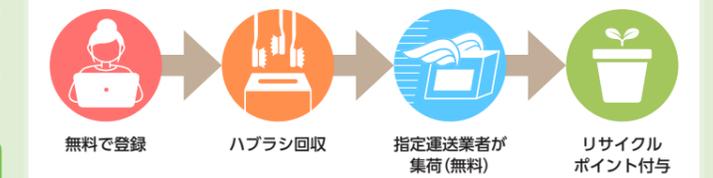
ハブラシ交換の普及により、ハブラシの交換頻度が増えることは、廃棄物の増加につながる懸念があります。そこで当社は、今までごみにしかなかった使用済みハブラシをテラサイクルジャパン合同会社と共同で回収してリサイクルする「ハブラシ・リサイクルプログラム\*」をアジアで初めて開始しました。ハブラシリサイクルにご協力いただける生活者一人ひとりも大事なパートナーという考えのもと、「資源循環型社会」を目指して歩みを進めています。



貢献するSDGs



※ハブラシ・リサイクルプログラムとは  
本プログラムは、個人・学校・団体等の単位で事前に参加登録すれば、どなたでも参加できます。回収ボックスの設置等を行い使用済みのハブラシを集めます。集めた使用済みハブラシは指定運送業者が集荷します。参加者には、集めた重量に応じてポイントが付与され、そのポイント数に応じて、ハブラシをリサイクルして作られたプラスチック製品(プランター等)との交換や教育支援・地域支援等の寄付に換えることができます。



ハブラシ・リサイクルプログラム  
<https://www.lion.co.jp/ja/csr/toothbrush-recycling/>



**自然との共生**

当社は、原材料調達から消費者による廃棄までのすべての段階で生物多様性に配慮しています。地域社会等と連携して生物多様性の保全に取り組み、自然との共生に配慮した商品を通して生活者のライフスタイルの変化を促しています。

また、環境教育の一環として、従業員一人ひとりが生物多様性保全活動に参画することにより、生物多様性保全に対する意識を全事業所に浸透させています。

全体像

当社が依存している生物多様性	原材料生産地の流域・生態系	各工場が立地する流域生態系	消費者が生活する流域生態系	
	原材料調達	生産	消費者による使用	消費者による廃棄
当社が利用している主な天然資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用原料となる植物(アブラヤシ等)</li> <li>包装材料である紙の原料となる木材</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工場で使用する冷却水、設備洗浄水等の原水</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品使用時の上水</li> </ul>	—
当社の活動が生物多様性に与える主な影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>パーム農園の自然環境や地域社会への影響(熱帯雨林の違法伐採による野生生物の生息地への影響等)</li> <li>紙の原料となる森林環境の損傷</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工場での地下水等の取水による、周辺の自然環境や地域社会への影響</li> <li>工場からの排水や排ガスによる周辺の自然環境や地域社会への影響</li> <li>工場で使用する光や香り等による周辺の自然環境や地域社会への影響</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者の水使用による自然環境や地域社会への影響</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者からの排水や容器包装の廃棄による自然環境や地域社会への影響</li> </ul>
生物多様性保全活動	リスクの低減につながる活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能なパーム油の調達の推進(RSPOへの参加、RSPO認証油の購入) <a href="#">関連情報</a> p.31</li> <li>森林の保全の推進(第三者認証紙の利用) <a href="#">関連情報</a> p.31</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工場廃棄物の削減</li> <li>工場の水使用量の削減</li> <li>浄化技術を組み合わせた排水の放流による河川、海等の生態系保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>節水型商品の開発 <a href="#">関連情報</a> p.10</li> <li>生分解性の高い洗剤の開発 <a href="#">関連情報</a> Web</li> </ul>
	機会の拡大につながる活動	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>工場が立地する流域での生物生息地の保全とモニタリング(アカウミガメ保護活動、ビオトープ整備活動、海岸の外來植物駆除活動等) <a href="#">関連情報</a> Web</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3Rの推進(つめかえ、内容物の濃縮コンパクト化、再生PET・薄肉化等の容器の開発) <a href="#">関連情報</a> p.20</li> <li><a href="#">関連情報</a> Web</li> </ul>

\*流域：水でつながる森林、河川、里山、干潟、海浜等の生態系。

取り組み事例

「ライオン山梨の森」森林整備活動

当社は2006年から、水源である森林の整備活動を行っています。2019年は新入社員研修とボランティア(2回)に、のべ149名が参加しました。地元の方々と一緒に、森の重要な役割を共有しました。

参加従業員数累計(のべ) **1,726名**



生物多様性保全への取り組み

<https://www.lion.co.jp/ja/csr/biodiversity/>

「Eco Vision 2020」実績値と目標値

項目			2018年実績	2019年実績	2020年目標値
低炭素社会の実現	温室効果ガス 国内	事業所内	売上高原単位 36%削減(2010年比)*6 50%削減(1990年比)*6 絶対量 49%削減(1990年比)*6	売上高原単位 40%削減(2010年比) 53%削減(1990年比) 絶対量 52%削減(1990年比)	売上高原単位 34%削減(2010年比) 49%削減(1990年比) 絶対量 40%削減(1990年比)
		事業所外	売上高原単位 9%削減(2010年比) 53%削減(1990年比) 絶対量 51%削減(1990年比)	売上高原単位 9%削減(2010年比) 53%削減(1990年比) 絶対量 50%削減(1990年比)	売上高原単位 9%削減(2010年比) 53%削減(1990年比) 絶対量 41%削減(1990年比)
	温室効果ガス 海外	事業所内	生産量原単位 2%削減(2017年比)	生産量原単位 2%削減(2017年比)	生産量原単位 毎年1%削減(2017年比)
		事業所外	年間5.2万トン削減	年間4.5万トン削減	年間10万トン削減
循環型社会の実現	水	事業所内	売上高原単位 34%削減(2010年比)*6 49%削減(2000年比)*6 絶対量 48%削減(2000年比)*6	売上高原単位 41%削減(2010年比) 54%削減(2000年比) 絶対量 53%削減(2000年比)	売上高原単位 15%削減(2010年比) 35%削減(2000年比) 絶対量 23%削減(2000年比)
		事業所外	売上高原単位 29%削減(2010年比) 54%削減(2000年比) 絶対量 52%削減(2000年比)	売上高原単位 29%削減(2010年比) 53%削減(2000年比) 絶対量 51%削減(2000年比)	売上高原単位 17%削減(2010年比) 45%削減(2000年比) 絶対量 33%削減(2000年比)
	廃棄物	事業所でのゼロエミッション*2	国内全事業所**4でゼロエミッション継続中	国内全事業所**4でゼロエミッション化	
	排水	工場排水*3のリサイクル	千葉工場における製造工程排水リサイクル稼働中	千葉工場における製造工程排水リサイクル稼働中	複数工場で工場排水をリサイクル
自然共生	調達	生物多様性に配慮した植物油脂の調達	RSPO*5認証パーム油誘導体の継続購入	RSPO*5認証パーム油誘導体の継続購入	全購入パーム油誘導体のRSPO認証化
	生物多様性	生物多様性保全活動の活発化	ライオン単体全工場での実施、関係会社・オフィス系事業所での実施拡大	ライオン単体全工場での実施、関係会社・オフィス系事業所での実施拡大	国内全事業所での実施
啓発	社会への意識啓発	お客様への環境啓発活発化	啓発活動へのお客様参加人数の2.2倍増(2010年比)	啓発活動へのお客様参加人数の1.9倍増(2010年比)	啓発活動へのお客様参加人数倍増(2010年比)

\*1 対象範囲は2019年12月31日現在の連結子会社  
 \*2 廃棄物総発生量の再資源化率を99%以上とする。ただし、再資源化の残さは含まない。  
 \*3 製造工程で発生する排水  
 \*4 千葉工場、小田原工場、大阪工場、明石工場、平井事業所、札幌オフィス、仙台オフィス、本社・東京オフィス、名古屋オフィス、大阪オフィス、福岡オフィス、ライオンケミカル(株)ファインケミカル事業所、ライオンケミカル(株)オレオケミカル事業所、ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ(株)小野事業所  
 \*5 Roundtable on Sustainable Palm Oil(持続可能なパーム油のための円卓会議)  
 \*6 過去のデータに誤りがあり、数値を修正しました。